

# 日本肢体不自由児協会が 実施する各事業へ ご協力をお願い



社会福祉法人日本肢体不自由児協会

事業企画推進課長 伊賀 寛



R6. 5. 10

# 肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展への 作品応募勸奨について



令和5年12月13日 作品をご鑑賞の様子  
日本肢体不自由児協会総裁常陸宮殿下

# 表彰式の様子

## 【対面表彰】

文部科学大臣奨励賞



特賞作品 海月

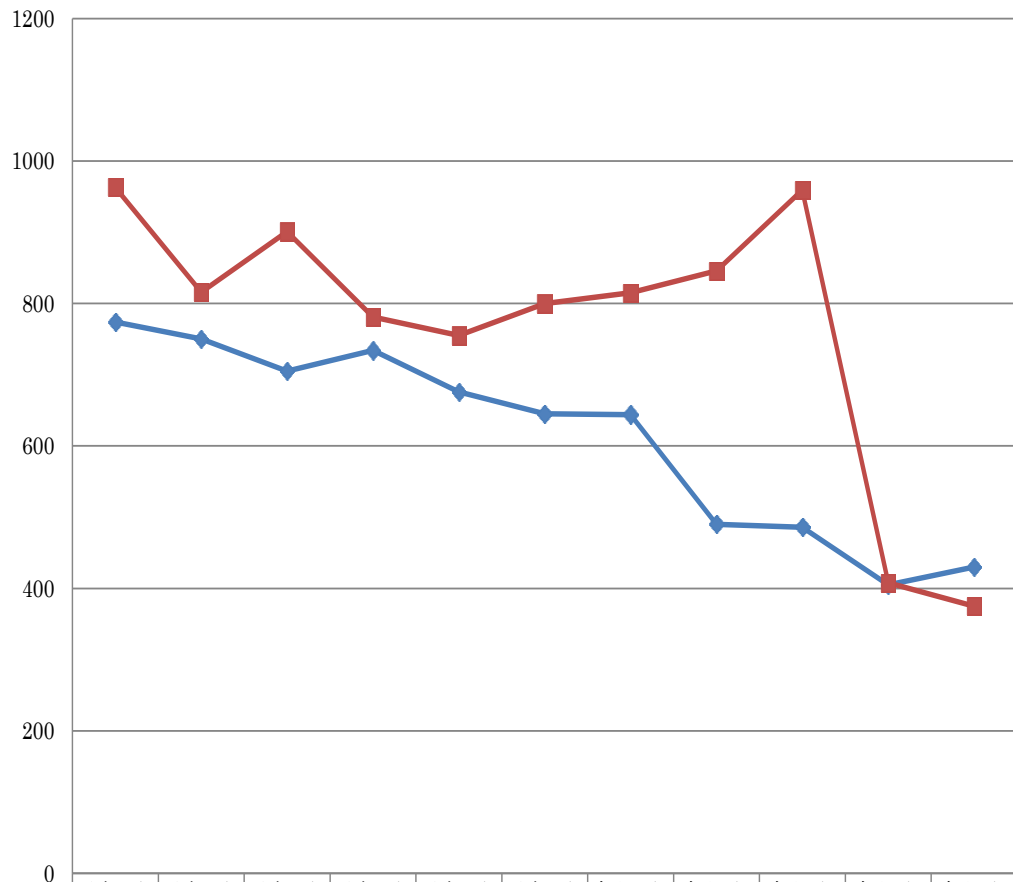
## 【オンライン表彰】

全国特別支援学校  
肢体不自由教育校長会賞



特賞作品 爆笑

## 作品応募数推移



コロナ禍の3年間、作品応募は減少してしまいましたが、昨年5月よりCOVID-19の感染症法上の取り扱いが5類へ見直しをされたことに伴い、作品制作をする時間がとれるようになった影響か、美術作品は微増しました。

※令和4年度よりデジタル写真展の応募は1人2点から1点に変更

第43回(令和6年度)

# 肢体不自由児・者の 美術展/デジタル写真展



## ■応募要領(美術展)

- ・1人1点に限ります。
- ※ただし、絵画、書、コンピュータアートの3部門でそれぞれ1点ずつは受け付けます。
- ・グループで制作されたものは不可です。
- ・題(テーマ)は自由です。
- ・未発表(所属先等での内部発表会は除く)のオリジナル作品に限ります。
- ・構図やデザイン等を模写した場合は、原作者の了解を得てから応募してください。
- ・応募用紙に必要事項をもれなく記入の上、制作風景の写真(応募作品制作時のものでなくても可)を必ず貼付してください(制作風景写真は作品審査の参考にさせていただきます)。
- ・応募用紙は部門ごとに異なりますのでご注意ください。

※コンピュータアート作品、デジタル写真作品をメールで募りいただきました場合は、受信確認のメールを送信します。受信確認メールが届かない場合は、お問合せ下さい。

## ■募集作品

- 絵画**
- ・4つ切りサイズ(38.0cm×54.0cm)以内、ただし、油彩画はF8(45.5cm×38.0cm)以内でキャンバスボード(板状のもの)のみ受け付けます。※キャンバスは不可。
- コンピュータアート**
- ・データでの応募に限ります。
  - ・ファイルフォーマットはJPG形式(ファイルサイズは10MB以内)のみでメール(art@nishikyo.or.jp)又はCD・DVD等のメディアに記録したものを郵送で受付けます。※データ以外は不可。別の形式の場合は必ずお問い合わせください。
- 書**
- ・書道用紙で半紙、半切4縦(八切)、半切、半切、半切、半切、半切のみでその他不可(縦罫はB4以内。)
- ※いずれも額に入れたり、台紙にはったり、裏打ちをしないでください。  
※書道用紙以外など規格外の作品については、必ずお問合せください。  
※佳作賞以上に入賞された書の内容は当方で裏打ちし表示するため、濃む恐れの高い墨等を使用した場合はその旨をご連絡ください。  
※作品にはできるだけ名前又は落款を入れてください。(名前・落款両方でも可)

## ■応募要領(デジタル写真展)

- ・1人1点に限ります。・本人が撮影したものに限り。
- ・題(テーマ)は自由です。
- ・未発表(所属先等での内部発表会は除く)のオリジナル作品に限ります。
- ・応募用紙は参考形式を参照してください。
- ・必要事項が記入されていれば書式は自由です。

## ■募集作品

- ・データでの応募ファイルフォーマットはJPG形式(ファイルサイズは10MB以内)のみでメール(art@nishikyo.or.jp)又はCD・DVD等のメディアに記録したものを郵送で受け付けます。※データ以外は不可。
- ・別の形式の場合は必ずお問い合わせください。
- ・学校や施設等での複数応募の際は枚数のCDに限ります。等での応募は可能です。(ファイル名で主催者側がわかるようにしてください)
- ・A3サイズにプリントして差し支えない記録画素数、クオリティで応募ください。

## ■審査

美術・写真専門家を含む関係者をもって構成する審査委員会において、作品種類別に分けて障害の種類、程度、年齢等を考慮して以下の賞を定めます。

- |   |   |
|---|---|
| <p><b>【美術展】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎特賞 26点以内</li> <li>◎優秀賞 30点以内</li> <li>◎佳作賞 40点以内</li> <li>◎努力賞 30点</li> </ul> | <p><b>【デジタル写真展】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎特賞 5点以内</li> <li>◎金賞 12点以内</li> <li>◎銀賞 22点以内</li> <li>◎銅賞 76点</li> </ul> |
|---|---|

- ◎審査委員特別賞  
特に審査委員の推薦のあった作品に贈ることがあります。入賞者全員に賞状及び入賞作品を掲載した作品集を贈呈します。

- ◎参加賞  
応募された方全員に記念として参加賞を贈呈します。

## ■表彰式 令和7年1月24日(金)

特賞受賞者(厚生労働大臣賞、文部科学大臣奨励賞、内閣府特命担当大臣賞、東京都知事賞をはじめとする後援・協賛・主催団体賞)の表彰式を執り行い、賞を贈呈します。審査結果は11月中旬に通知します。

## ■展示会 令和7年1月24日(金)～26日(日)までの3日間

文京シビックセンターにて開催(東京都文京区)。

(美術展は、佳作賞以上、デジタル写真展は銀賞以上の作品を展示予定)その後、新潟県・福岡県・沖縄県等で巡回展示予定です。

## 応募先

〒173-0037  
東京都板橋区小茂根1-1-7 社会福祉法人日本肢体不自由児協会 美術展係  
Tel03-5995-4511 Fax03-59954515 E-mail art@nishikyo.or.jp

締切  
令和6年9月20日(金)  
当日必着

- 主催：社会福祉法人日本肢体不自由児協会
- 後援：厚生労働省/文部科学省/こども家庭庁/東京都/全国特別支援学校肢体不自由教育校長会/全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会/一般社団法人全国肢体不自由児者友の会連合会/社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団/公益財団法人毎日新聞社会事業団/社会福祉法人NHK厚生文化事業団/社会福祉法人読光と文の事業団/文京区
- 協賛：NTTデータ ルーヴ株式会社/公益財団法人オリックス富内財団/テルウェル東日本株式会社

●美術展・デジタル写真展とも応募用紙は当協会ホームページ  
(<https://www.nishikyo.or.jp/>)からダウンロードをお願いします。

- 応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、主催者は応募作品を審査結果の発表及び広報のために無償で展示及び複製する権利を有します。
- 美術展応募作品(絵画・書)に限り送料応募者負担にて希望者には応募作品を返却します。返却時期は令和7年1月下旬を予定しております。また、入賞された場合は各地の巡回展示を予定しているため1年間は当協会に保管し、返却は令和8年1月になります。
- コンピュータアート・デジタル写真作品は返却いたしません。
- 入賞された場合は氏名(ペンネーム等不可)・年齢・所属を公表いたします(障害名は公表しません)。

今年度は、9月20日締め切りで、作品募集を開始します。

応募勸奨をよろしくお願ひします。

令和7年1月24日～26日まで、文京シビックセンター(東京都文京区)にて、入賞作品の展示会を予定しています。

初日(1月24日)には、特賞受賞者の表彰式を行います。

# ねむの木賞について

ねむの木賞は「ねむの木の子守歌」の歌詞著作権を肢体不自由児事業振興のために当協会に下賜された上皇后陛下の御意志を永く記念するため、昭和42年に設けられました。肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、特別支援学校等において永年肢体不自由児の日常生活指導業務等に携わり、優秀な成績をおさめている女性職員(直接処遇職員)に対してその労をねぎらい、また、今後の益々の活躍を期待して毎年授与しています。

## 推薦要項

- (1) 医療型障害児入所施設(旧肢体不自由児施設・旧重症心身障害児施設)、療養介護事業所(旧肢体不自由児施設及び旧重症心身障害児施設)、福祉型障害児入所施設(旧肢体不自由児療護施設)、医療型児童発達支援センター・児童発達支援事業(旧肢体不自由児通園施設・旧重症心身障害児通園事業)並びに特別支援学校(特別支援学級を含む)に勤務中の女性職員。
- (2) 上記(1)において肢体不自由・重症心身障害のある児童・生徒等の日常生活の指導、看護、養護・介護に直接従事している女性職員。
- (3) 上記業務を永年(10年以上)にわたって勤続し、現職であるとともに優秀な成績をおさめていること。
- (4) 引き続き肢体不自由児等の療育に従事する後進の指導を行うことができる状態であること(今年度で定年の場合などは、継続雇用が現職で見込まれること)。

上記の趣旨に相応しい該当者をご推薦いただけますようお願い申し上げます。

## ねむの木賞の教育関係受賞者(敬称略)

- R05(57回) 鈴木淳子 東京都立花畑学園  
R04(56回) 東 光代 京都府立向日が丘支援学校  
R03(55回) 新井洋子 東京都立志村学園  
町田睦美 東京都立光明学園  
R02(54回) 川崎奈津枝 北海道拓北養護学校  
R01(53回) 加藤裕美子 筑波大学附属桐が丘特別支援学校  
H30(52回) 大山衣絵 東京都立光明学園  
H29(51回) 市川敬子 青森県立青森第一高等養護学校  
H28(50回) 中村秀代 岐阜県立可茂特別支援学校  
H27(49回) 宇崎佳子 新潟県立上越特別支援学校



当協会総裁常陸宮殿下とのご接見

# 高木賞について

高木賞は、わが国で初めて肢体不自由児療育の体系をたてられ、療育事業に偉大な貢献をされた故高木憲次博士の御遺徳を永く記念するため昭和42年に設けられました。高木賞は肢体不自由児療育の領域において特に顕著な功績のあった者(団体)、または同領域において優秀な研究を行った者(団体)に対して授与しています。また、今後肢体不自由児療育の分野において活躍が期待できる者(団体)に対して高木奨励賞を授与しています。

## 推薦要項

### (1) 高木賞

授賞の対象は次の各号のいずれかに該当すること。

ア. 肢体不自由児療育の領域において特に顕著な功績のあった個人、あるいは団体。

イ. 同領域において特に優秀な研究を行い斯業の向上に著しく寄与した個人、あるいは団体。

### (2) 高木奨励賞

授賞の対象は次の各号のいずれかに該当すること。

ア. 肢体不自由児療育の分野において功績のあった個人、あるいは団体。

(いずれも将来の活躍を期待できること)

イ. 同療育の分野において優秀な研究を行い斯業の向上に寄与した個人、あるいは団体。

(いずれも将来の活躍を期待できること)

上記の趣旨に相応しい該当者をご推薦いただけますようお願い申し上げます。

## 高木賞の教育関係受賞者(敬称略)

### ○高木賞

R05(57回) 下山直人 筑波大学非常勤講師

H29(51回) 古川勝也 西九州大学教授

H25(47回) 西川公司 放送大学客員教授

### ○高木奨励賞

R01(54回) 長沼 俊夫 日本体育大学体育学部体育学科

H27(49回) THE MAGICAL TOY BOX 代表 金森克浩



令和5年度 贈呈式の様子

# はげみ購読のお願い

「はげみ」は、障害児・者を育てるお父さん、お母さん、ご家族のみなさんなどの励みとなるようにと発行されてから60年を超えました。医療のこと、訓練のこと、教育のこと、福祉制度のこと、しつけや生活にかかわる情報提供や、いろいろなテーマを最近の動向にあわせて分かりやすく解説しています。

お父さん、お母さん、施設の職員の方、学校の先生方などのみなさんに読んでいただける情報誌です。

## 令和6年度 特集

- 4/5月号 ミラコン2023～未来を見通すコンテスト～第6回プレゼンカップ全国大会特集号
- 6/7月号 けいれん・てんかん2
- 8/9月号 音楽・表現活動
- 10/11月号 災害に備える3
- 12/1月号 福祉制度のこれから～報酬改定～
- 2/3月号 在宅支援・家族支援

## 編集委員(順不同)

- 服部 剛(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課課長補佐)
- 菅野和彦(文部科学省初等中等教育局視学官)
- 岡崎俊彦(こども家庭庁支援局障害児支援課移行支援専門官)
- 覚張秀樹(東京女子体育大学教授)
- 金森克浩(帝京大学教育学部教授)
- 有吉万里矢(全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会会長)
- 河井 文(東京都肢体不自由児者父母の会連合会前会長)
- 酒井康年(うめだ・あけぼの学園副園長)
- 澤村 愛(元東京都立光明学園PTA会長)
- 津田 貴(どこだれ代表)
- 三室秀雄(元東京学芸大学教職大学院特命教授)
- 北住映二(心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園名誉園長)
- 小崎慶介(心身障害児総合医療療育センター所長)
- 水口 雅(心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園園長)
- 鈴木健吾(日本肢体不自由児協会常務理事)



年6回発行  
年間購読料4,950円



# 広場

## ミラコン、新たなステージへ

ミラコン全国大会実行委員会 事務局長  
東京都立大泉特別支援学校 校長  
花田 妙子

平成31年2月5日に第1回のミラコン「未来を見通すコンテスト」プレゼンカップ全国大会が開催されました。あれから5年、早いもので第6回のミラコン全国大会を令和5年12月13日に東京芸術劇場シンフォニースペースを会場として開催することができました。今大会は、全国37校87作品から各ブロックを勝ち抜いた7作品が全国大会ファイナルステージへ進みました。新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に2類から5類に移行されたことを受けて、会場での観覧者数の制限を大きく緩和した中で、熱いプレゼンテーション大会が繰り広げられました。

この大会創設の思いは、本誌「はげみ」令和4年4/5月号でも紹介されていますが、企画の発端は平成30年春の全国特別支援学校肢体不自由教育校長会（略称・全肢長会）役員会の場にさかのぼります。当時の全肢長会 田村康二朗会長（現・東京都立墨東特別支援学校校

長）の提案を受けて役員会一同が賛同し、言語・文化面において全国規模で切磋琢磨できる大会開催の実現に向けて一気に動きだしました。肢体不自由の特性を生かした持続可能な内容に練られた大会のコンセプトは今に引き継がれています。運営方式は第1回から今大会に至るまで、観音映像データをDVDに収めて郵送するエントリー方式で、全国大会の場は出場者をオンライン中継でつなぐスタイルです。作品を審査員が会場で視聴し、遠隔システムで全国大会出場者と審査員をつなぎ質疑応答ができるので、コロナ禍の第3回から第5回も中止することなく開催を継続することができました。第1回開催の時には想像もしていなかった感染症のパンデミックでしたが、こうした開催形式により途切れることなく着実に回数を重ねることができました。

ミラコン黎明期は出場校をオンラインでつなぐ環境整備にたくさんの方の課題があり、その一つ一つを解消するた  
階から参画いただき、ファイナルステージに見合った会場（東京芸術劇場）や遠隔イベント運営企業の確保などで力強く支えていただいた大会となりました。このパートナーシップを大切にしながら、参加校や応募作品がますます増えて全国の肢体不自由特別支援学校高等部で学ぶ生徒の皆さんが切磋琢磨する機会として大会が成長していくことを期待しています。

プレゼンカップ全国大会の目的の一つは「全国の肢体不自由特別支援学校に通う生徒の言語能力を向上させるとともに、一人一人が生徒にわたり学び続ける力を育成し、社会的自立に向けた健やかな成長に資すること」です。言語活動の充実、グローバル化が進み正解が一つではない世界において、異なる文化や歴史を理解し他者とコミュニケーションをとりながら共存していく力の育成を図る上で重要な取り組みです。生徒の皆さんの瑞々しい感性で感じ取ったことを表現し、提言にして発信することは言語能力の向上につながっていきます。

学習活動として取り組んでいただき、ミラコン「未来を見通すコンテスト」プレゼンカップ全国大会ファイナルステージで全国の生徒の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

めさまざまな苦勞がありました。しかし、新型コロナウイルス感染症により世の中の動きに制限がかかったことで急速に学校のICT環境整備が加速し、今大会は出場校への機器レンタル支援することなく開催することができました。この点においては一つの節目を迎えた大会となったと言えます。さらにもう一つの事柄により、今回の大会が特別な記念すべき大会となりました。社会福祉法人日本肢体不自由児協会には第1回大会より協賛をいただいております。令和4年からは年度初めの本誌4/5月号でプレゼンカップ大会特集号を刊行しています。今大会からはさらに主催者として加わったことで企画役



第2回～第5回のシンボルとなったタペストリー

# 肢体不自由のある子どもの Windows と iPadOS 活用講習会 開催要項

1. 趣 旨 肢体不自由のある子どもたちの生活や学習を豊かにするためのコンピュータ機器を有効に活用できるよう、講座を行います。本研修会では主に、iPad を中心としたタブレット PC やそれを活用したスイッチ機器の活用と、視線入力機器の活用を中心に講義と実習を行います。

2. 主 催 社会福祉法人日本肢体不自由児協会

3. 日 時 令和6年8月3日(土)～4日(日)

4. 会 場 心身障害児総合医療療育センター 療育研修所 (東京都板橋区小茂根 1-1-10)

5. 交 通 東京メトロ有楽町線及び副都心線「小竹向原」駅下車 徒歩約10分

6. 対 象 特別支援学校・療育関係者(保護者、支援者を含む)等

7. 内 容 肢体不自由児の表現を豊かにするコミュニケーション支援機器の活用方法について「基本設定」「ソフトの選択」「入力方法」「授業での活用実践」などを、専門的立場から指導にあたっている第一線の講師による講義と実習により受講します。

8. 講 師 伊 藤 史 人 (島根大学)  
金 森 克 浩 (帝京大学)  
谷 本 式 慶 (東京都立村山特別支援学校)  
福 島 勇 (国立高専機構熊本高等専門学校)  
和久田 高 之 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)

9. 参加費 **16,500円**

10. 日 程 ○1日目(8月3日)9:30～17:00

受付 9:00～  
講義 9:30～10:00 肢体不自由児のための支援機器入門(金森)  
10:10～10:50 肢体不自由児のための支援機器活用実践紹介①(谷本)  
11:00～11:40 肢体不自由児のための支援機器活用実践紹介②(和久田)  
11:50～12:30 重度肢体不自由児のアート活動とeスポーツ(伊藤)  
実習 13:30～15:00 iPadOS「アクセシビリティ機能演習」(福島・谷本・和久田)  
15:10～16:40 「コミュニケーションや学習に役立つアプリ演習」  
(福島・谷本・和久田)  
16:50～17:00 「まとめ」(金森)

○2日目(8月4日)9:00～16:30

実習 9:00～10:30 「視線入力装置の設定と導入のコツ」(谷本・福島・和久田)  
10:40～12:00 「EyeMoTシリーズの基本と操作演習」(伊藤)

実習 13:00～14:30 「視線入力装置を使ったアプリ操作演習」

(谷本・福島・和久田・伊藤)

14:40～16:10 「事例から学ぶ、支援機器活用ワークショップ」

(金森・福島・谷本・和久田・伊藤)

16:20～16:30 「まとめ」(金森)

## 11. 申込方法

- ① 6月3日(月)11:00より先着順で受け付けます。
- ② 当協会ホームページの「研修会」(<https://www.nishikyoo.or.jp/workshop/index.html>)ページから申込してください。
- ③ 「申込フォーム」より必要事項をご記入いただき、送信ボタンを押してください。
- ④ 申込確認メールを当協会よりお送りします。  
※インターネットでの申込後に申込確認メールが届かない場合はお手数ですが、お電話(03-5995-4511)にてご連絡ください。  
※迷惑メールの対策などでドメイン指定を行っている場合、メールが受信できない場合があります。「@nishikyoo.or.jp」を受信設定してください。
- ⑤ 参加費 16,500円 7月19日(金)までに下記まで払込ください。  
郵便振替 00130-0-51082 社会福祉法人日本肢体不自由児協会  
宿泊希望の方には、研修所の宿泊室を1人 4,950円(夕朝食なし)にて8月3日泊のみ受付します(ツインルームを1名使用で16室、16名定員)。  
希望の場合は受付時にお申し込みいただき、宿泊費4,950円を参加費とともに払込ください。
- ⑥ 参加者には、当日のご案内等詳細を7月下旬にメールにてお送りいたします。
- ⑦ 参加できなくなった場合にはお早めにご連絡ください。
- ⑧ キャンセルについて  
7月25日(木)までにご連絡いただきましたら、参加費は全額ご返金いたします。7月26日以降につきましては、参加費は原則返金いたしません。なお、代理出席の場合は必ず事前にご連絡ください。一般的な旅行契約等とは異なりますが、ご了承願います。
- ⑨ ※参加者数が規定の人数に満たないときは中止なる場合がございます。

## 12. お問い合わせ先

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-1-7 社会福祉法人日本肢体不自由児協会 事業推進部  
TEL:03-5995-4511 FAX:03-5995-4515 E-MAIL:workshop@nishikyoo.or.jp